

目的 ドレスシャツは、直接肌に触れて着用される部分が多く、しかも衣服構造が限定されている。本研究は、ドレスシャツ地として望ましい布の基本風合いおよび手触りで捉えられる布の品質としての総合風合いを布の力学的性質から精度よく予測する客観評価法を導くことを目的とする。

方法 前報に引きつづき、主観評価パネルを拡大し、製布仕上げ関係者、縫製関係者、男子学生、女子学生の4グループに紳士服地関係者、ドレスシャツ着用者の2グループを加え、計54名の評価員に手触りによる布の品質の良否について5段階評価を行った。またドレスシャツ地の基本風合いについて、手触り判断の熟練技術者による10段階評価を行った。得られた評価値と測定した力学量から、多変量回帰分析により力学量-基本風合い値変換式を、さらに基本風合い値の2次の項を用いて、総合風合い値を求める式を導いた。また、これらの変換式を新たに集めた53種の試料に適用して、その実用性を検証した。

結果 各グループ内およびグループ間の評価はかなりの一致を得た。夏用ドレスシャツとして品質の良い布は、ふくらみ、こしが小さく、適度のほりがありしゃりの大きいもの、冬用は、ふくらみ、こしが大きくしゃりの小さいものという評価が得られ、布の品質の良否にはふくらみの昏与の大きいことがわかった。布の力学量から基本風合い値を、基本風合い値から総合風合い値を相関係数0.8以上の回帰精度で予測できる式を導いた。この予測式は、評価員の判断の誤差範囲で適用できることを確かめ、ドレスシャツ地の手触りによる品質を布の力学的性質から客観的に評価できる方法を明らかにした。